

【B型肝炎に関する感染対策】

B型肝炎とは

B型肝炎ウイルス(HBV)が血液・体液を介して感染して起きる肝臓の病気です。HBVは感染した時期や感染したときの健康状態によって、一過性の感染に終わるもの(一過性感染)と、ほぼ生涯にわたり感染が継続するもの(持続感染)とに大別されます。

感染経路

- * **垂直感染**：出生時の母子感染
- * **水平感染**：医療従事者の針刺し事故、注射針の使いまわし、傷のある皮膚への体液の付着
未滅菌のピアッサーや入れ墨器具の使用、不特定の方との性交渉 など

予防

HBVワクチン：ワクチンスケジュールとして1シリーズ3回接種します。

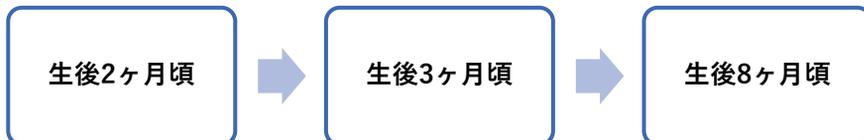
* HBs抗体はCLIA法で10.0mIU/mL以上で免疫を獲得したと判断します。

40歳までの接種で
抗体獲得率は95%

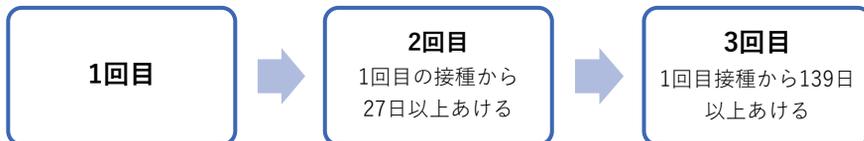
小児(定期接種)：生後2ヶ月から開始し、0歳のうちに3回目まで終了させる

* 乳幼児の場合は抗体価獲得率が高いので、抗体検査は不要とされています。

感染防御効果
20年以上持続



成人対象者：医療従事者、輸血など血液製剤を頻回に行う場合、B型肝炎の方と性的パートナーや同居家族 など



3回目接種から1~2ヶ月経過した時の抗体価が10.0mIU/mL未満の場合は、もう1シリーズの接種が推奨されます。2シリーズでも抗体陽性化が見られなかった場合は、追加接種での陽性化率は低くなりますので、血液・体液曝露に対しては、適切な予防策を行う必要があります。

メスや注射針等で切傷を行ってしまった際に、B型肝炎に感染する確率は約30%。C型肝炎ウイルス(約3%)、ヒト免疫不全ウイルス(約0.3%)に比べ感染率が高いです。そのため、針刺し等の切傷が発生した場合、抗体が低下している場合や未接種の方に対し、発生後24時間(遅くとも48時間)以内にHBsヒト免疫グロブリン投与(HBIG)およびワクチン接種を開始することが望ましいとされています。

免疫グロブリンが必要な時は、各地域の感染対策向上加算1の病院、または群馬県感染症連絡協議会にご連絡下さい。

感染を防ぐためには・・・

ワクチンを接種する

手袋を着用する

使用した注射針は
すぐに破棄をする

リキャップを
しない

安全装置付き器材の
使用を検討する

安全装置付き器材を使用する際は
きちんと安全装置を作動させる

* 日頃から、血液や体液に曝露しないように標準予防策を適切に行いましょう!!